

例会日/毎週木曜日

例会場/リーガロイヤルホテル広島

会長/山岡 稔

幹事/中村 富子

H P /<https://h-asa-rc.org>



広島安佐ロータリークラブ MONTHLYREPORT

2025年10月号 Vol.647

よいことのために手をとりあおう

【2025-26年度 会長テーマ】
Membership ! (会員増強)

2025年10月2日(木) 第1155回
リーガロイヤルホテル広島
3階 瀬戸の間



～ 会長時間 ～

今日10月2日は日本豆腐協会が、とう(10)ふ(2)の語呂合わせにちなんで10月2日記念日を制定しております。

夏バテ防止の効果も期待できる大豆製品として手軽に摂取できる豆腐は、健康食品としても注目されており日本の国民食と言っても過言ではないかと思えます。おそらく日本人で一度も豆腐は食べたことがないという国民は誰一人といないぐらい日本人にとってはかかすことのできない食べもののひとつだと思います。

余談ですが日本の豆腐はそのままでも食べられることを想定しているため、柔らかく淡泊な食感が特徴となりますが、一方、諸外国の豆腐は炒めたり揚げたりして調理加工することが主流のため、水分が少なく、そのままでは食べづらい堅いものが一般的とされております。

更に余談で食品の「腐」の字が入るのはよろしくないと言われていることから豆腐、豆富と表記される場合もあるそうです。



「ガバナー公式訪問」

国際ロータリー第2710地区
ガバナー 土肥 慎二郎 様



皆さん、こんにちは。本年度ガバナーを務めます東広島21 RCの土肥慎二郎です。今日は、私の48回目の公式訪問になります。どうかよろしくお願いします。

広島安佐RCは1999年3月4日に、広島陵北RCをスポンサーとして創立されたと聞いております。その年度のRI会長は、アメリカのジェームス・レイシー、テーマは「ロータリーの夢を追いつけよう」でした。特に、子供たちが愛され、健康で十分な栄養を与えられ、教育を受け、保護される世界を夢見ましよう、と訴えました。

ところが、今年度より国際ロータリーは、RI会長のテーマを廃止しました。理由は簡単です。2017年に発表したロータリーのビジョン声明とそれを実現するためのロータリーの行動計画がなかなかクラブに浸透しないからです。

最近のRI会長のテーマを並べてみました。

2022-23年度 岡本会長 ジェニファー
イマジン・ロータリー

2023-24年度 横手会長 ゴードン
世界に希望を生み出そう

2024-25年度 中村会長 ステファニー
ロータリーのマジック

このように、RI会長が毎年違うテーマを出され、それに則ってクラブを運営する、これではいつまでたっても「ロータリーのビジョン声明」が浸透するはずがないのです。

2000年ごろより、世界のロータリアンの数は減り続けています。そして毎年16万人が入会して、17万人がやめている、しかもそのうちの2万人は入会3年未満の会員である、このような現実があります。

これに危機感を覚えた国際ロータリーは、組織に問題があるのでは…と考えました。そして全会員からアンケートを取り、専門家の意見も取り入れ、今後ロータリーという組織がどのような組織になったらいいのかを謳ったのがこの声明です。

「私たちは、世界で、地域社会で、そして自分自身の中で持続可能な良い変化を生むために、人々が手を取りあって行動する世界を目指しています。」

わたしは、この声明のポイントは2点あると思います。ひとつは、ロータリアンが手を取り合って行動すればもっと素晴らしいことが出来る、ということ、そしてもう1点は自分自身の中で…という部分、これが私は一番重要なポイントだと思っています。

札幌東RCに塚原さんというパストガバナーがおられるのですが、次のように言っておられます。「ロータリーは困っている人を助けてあげることだと思いがちですが、実際は助けられているのは自分の方かもしれません」 みなさんどう思われるでしょうか？

そしてこのビジョンを実現するために「ロータリーの行動計画」が発表されました。この行動計画は4つの優先事項からなっています。

「より大きなインパクトをもたらす」これだけを読みますと、多くの人はポリオの根絶をはじめとする規模の大きいプロジェクトを想像されるのではないかと思います。そして「クラブ単独でそんなに大きなことは出来ないよ」そのように思われる方もおられるかもしれません。ところが、ここでいうインパクトとは規模や成果の大きさを表しているのではありません。

ロータリーの行動計画でいうインパクトとは、そのプロジェクトが、いかにその人たちの人生を変えたか？ということです。

昨年度国際ロータリーのアーチック会長は、ダイエットを例にしてこのように言われました。

「ダイエットにおいては、体重が何キロ減ったのか？というのが大切なわけではありません。いかに健康になったか？ということが大切なのです。」

そのように考えますと、我々ロータリアンが行なう地域の地域社会への様々な活動は、どれもが、意義深い、インパクトのあるものになり得ると思います。

広島安佐RCが提唱されている、崇徳中学・高等学校IACや、磯部さんのようなG補助金奨学生、スクナさんのような米山奨学生への支援は、ひとの人生を変え得るものだと思います。また、子供療育センターへの支援や比治山での清掃活動、そういった地域へ密着した活動もとても意義深いものだと思います。と同時に、私たちは同じ志を持った、世界中120万人とつながったネットワークですので、ロータリー財団を通じての大規模なプロジェクトにも目を向ける必要があります。これは寄付、という形で、私たちは、いつでも自発的に行うことが出来ます。皆様方の善意をいただけましたら幸いです。

続いて「参加者の基盤を広げる」ですが、これはその名の通り会員を増やすことです。今年の国際協議会でも、多くの演者が会員増強の大切さを訴えました。

そして「参加者の積極的なかわりを促す」、「適応力を高める」これも、会員増強にもつながる話だと思いますが、要は「会員がクラブに何を求めているか？」ということを実際に考えなければならない、という事だと思います。

ロータリーって組織は結構アンケートが好きで、あちこちでアンケートをとっています。会員がロータリーに求めるものとして、国によって違いがあるそうです。日本においては最も多かったのが「親睦」でした。それがアメリカでは「倫理観」です。世界全体でみると「情報の透明化」これが最も求められていることのことでした。

それから日本のロータリアンに「あなたにとってロータリークラブの価値とは何ですか？」と聞いてみたそうです。皆さんはどう答えますか？一番多かったのが「自己研鑽、学習、成長」だったそうです。2番目は「地域社会への貢献」3番目は「生涯の友人、そして魅力的な仲間」だったそうです。それから年齢別での傾向として、若い会員は「人脈が広がる、とか、事業の機会がアップする」これを求めているのに対して、比較的高齢の会員さんは「生涯の友人、魅力的な仲間」これを求めている傾向があったようです。世代間のギャップということを考えるうえで、参考になるかもしれません。

それからDEI、ロータリーでは、会員一人一人にとって、居心地がよく、帰属意識が持てるクラブ運営が何より重要だと考えております。そして、この声明に基づいて、昨年度国際ロータリー会長エレクトだった、ブラジルのマリオさんが、このメッセージを発表しました。「よいことのために手を取りあおう」

現在、ロシアとウクライナが戦争をしています。イスラエルとハマスもそうです。このような分断されがちな昨今において、「一緒に手を取りあって、いいことをしましょう！」そういったシンプルかつ力強いメッセージだと思います。

ところが突然6月に会長エレクトの職を辞任されました。理由はよくわからないのですが、相当な事があったのだと思います。そして、新しい会長としてイタリアのフランチェスコ・アレツツォさんが就任されました。「継続性」を重要視するRI理事会は、年度メッセージの変更をしませんでしたが、私はこの新会長よりメールをいただいたときに、大変驚きました。前任者のマリオさんは、何が何でも「会員増強」、その重要性を述べられておりました。ところがアレツツォ会長は、「会員同士の信頼と友情」、それが大切だと言っています。そして、「変革とは戦略から始まるものではなく、一人ひとりの人格や接し方から始まる」、そのように言っています。そして、ロータリーは私たちを変えてくれます。そのために「よいことのために手を取りあおう」そういうメッセージをあらためて投げかけられました。



さて話は変わりますが、ロータリーが誕生して今年で120年が経過しております。ロータリーを作った人は、ポールハリスという青年弁護士でした。アメリカのシカゴという街で、弁護士事務所を構えて商売は繁盛していました。しかしながら弁護を依頼してくる人は、私利私欲のために嘘をつく人ばかりだったので、そんな人たちを相手にしているのが寂しくなったそうです。そこで業種の違う人たちを集めて、社交クラブを作りました。会場を一定にせず、場所を変えて例会を開いたのでロータリーと名づけられました。

ロータリークラブに集まる人は、事業家や職業人なので、話題は商売の話が中心になります。しかしながら一業種一人なので競争がなく、会員は他人とは思えないくらいに仲が良くなり、お互いの恥を平気で話し合っ、困ったことは相談しあう、慰めあう、進んでお互いを助け合う、そのような親睦が生まれました。さらには会員同士の利益を目的としての商業取引も行われるようになったそうです。当時の定款には、クラブの目的は「会員の親睦と事業拡大の増進」と書いてあったそうです。しかしある日、この定款を見たある人がこのように言いました。「こんな仲間だけのことを考えているだけのクラブは長続きしませんよ。会員以外の人たち、そして地域社会に役に立つことをした方がいいでしょう。それなら私も喜んで入会しますよ」そのように言ったそうです。これを聞いたポールハリスは定款に「シカゴ市の最大の利益を図り、市民として忠誠を尽くす」という一文を追加しています。そしてクラブが最初に行った活動が、シカゴ市への公衆便所設置運動でした。当時のシカゴにはお客さん用のトイレが、百貨店もしくはバーくらいにしかなかったそうです。そこで、トイレを使いたい通行人は、百貨店で何かを買うか、バーで一杯ビールを飲む必要がありました。そこでポールハリスは、抵抗する団体を抑えて市内2か所に公衆便所を設置しました。そのおかげで多くの市民が安心してトイレを使うことが可能になったわけです。このようにロータリーの最初の奉仕活動は、単に金銭を渡すだけではなく、市民生活に影響を与えるような、いわゆる地域社会に「インパクトをもたらす」活動だったのです。

奉仕、サービス、という言葉をもとにロータリーに持ち込んだのは、シェルドンという人です。経営学者であった彼は次のように言っています。

「自分の事業が発展するためには、自分のもうけを優先するのではなく、まずお客さんのことを考えてください。そして、その得られた利益は自分が独占するのではなく、従業員や取引に関係する人たちと適正に再配分すること、そうすることで最終的には継続的な事業の発展につながるようになります。」これを「最もよく奉仕するもの、最も多く報われる」という言葉で表現しました。この職業奉仕を実践することによって、ロータリーの会員の職場は活気を取り戻して、成功者も多くなり、ロータリアンは信念を持つことが出来ました。そして「利他の心」をもって行動することは、単に職業を成功させるだけではなく、社会をも良くする、のちに「超私の奉仕」という言葉が生まれました。この2つの言葉をロータリーでは「奉仕の理念」と呼んでおります。

これが初期のロータリー思想の歴史ですが、この「奉仕の理念」を実践しようとしたロータリアンを紹介いたします。

それはカーネル・サンダースさん、皆さんご存じのケンタッキー・フライド・チキンの創業者です。1920年、29歳の時に、アメリカ、インディアナ州のロータリークラブに入会しました。そこで「他の人に最高のサービスをする人が、最も利益を得る人だ」ということを学びます。そして、その後ケンタッキー州にうつり、ガソリン・スタンドの経営を始めました。当時のケンタッキー州は道路が舗装されておらず、車はどれも埃まみれで走っていたそうです。そこでサンダースさんは、車が店に来ると、まず車の窓を洗うことにしました。そして、ラジエーターの水やタイヤを点検して、最後に「ガソリン入れましょうか？」と聞いたそうです。当時そういうサービスはほとんど無かったようですが、彼は、道を聞くためだけに店に入ってきたお客さんにもそのようにしたそうで、これが評判となり店は繁盛しました。

それでも、なおサンダースさんは「来る人にもっと喜んでもらえること」を常に考えていました。ある日、お客さんのほとんどがおなかを減らしていることに気づきます。「車にガソリンが必要なように、お客さんにはおいしい食事が必要だ」そのように考えました。そして「サンダース・カフェ」という、たった6席しかない、小さなレストランを併設しました。

元々、彼は料理が上手だったそうです。なぜかというところ6歳の時に父親を病気で失い、働きに出ていた母親の代わりに小さい弟と妹の面倒を見ていたからです。料理の方法や味付けのコツを子供のころより母親から学んで、家族のために料理を作っていました。そして単に料理が上手なだけではなく「人が喜ぶ料理を真心を込めて作る」という信念を持っていました。シェフの仕事のみならず、洗い場、レジ係を一人でこなし、店には「おいしくなかったらお代は結構です」とまで書いてあったそうです。特にフライド・チキンは人気があり、それが美味しいということで店は繁盛したそうです。

さらに人に喜ばれるために考えたのがモーテルでした。「旅行者は安心して心地よく泊まれるところを探している」ということで店のそばにモーテルを作りました。

また仕事以外でも、他人に喜ばれることが生きがいだったサンダースさんは、街の孤児院をたずね、恵まれない境遇の子供たちにアイスクリームやお菓子の提供をしています。特にクリスマスの日にはターキーを料理して毎年のように訪問していたそうです。

サンダースさんが救ったのは子供だけではなくありません。アルコール中毒患者の更生にも積極的に取り組んでいます。時にはアルコールを絶たせるために自分のモーテルを使わせたこともあったそうです。こういった功績から44歳の時、ケンタッキー州知事から、カーネル、陸軍大佐の名誉称号を受けました。

このように「一生懸命働き」そして「人の喜ぶことを真心を込めてした」サンダースさんですが、良いことばかりではありませんでした。49歳の時、レストランが火事で全焼してしまいます。また65歳の時には、近くに高速道路が出来たために店の客さんが減り、店が破産してしまいます。たくさんの奉仕をしたにもかかわらず、結局は報われなかったのです。

さて彼はどうしたのでしょうか？

このまま年金生活になる方法もありましたが、最後まで一生懸命働くことを選択しました。彼にはフライド・チキンが残っていました。評判の良かったフライド・チキン、その作り方に改良を加えました。そして圧力釜を用いて、彼にしかできないフライド・チキンを完成させました。そしてそれをレストランで提供するのではなく、作り方を教えて、各レストランのメニューとして出してもらい、そしてチキン1ピースにつき数セントのロイヤリティをもらう、というまさにフランチャイズ契約のはじまりともいえる事業を始めました。

最初はなかなか契約が取れなかったそうですが、彼にはチキンへの絶対的な自信がありました。1軒1軒店を回って根気よく説明し、納得の話合いが出来れば契約したそうです。時には自分からパスする店もありました。調理場が清潔でない店や、サービスの行き届いていない店とは契約しませんでした。

そこで用いた原則が、次のことです。

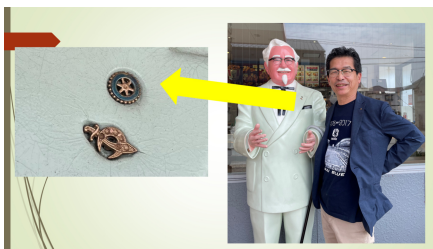
- ・そのビジネスに嘘偽りはないか？
- ・そのビジネスは関係するすべての人に公平なものか？
- ・そのビジネスは良好な人間関係を作っていくものか？
- ・そのビジネスは関係するすべての人にとって有益なものか？

どこかで聞いたことがあるテストです。

こうして1年間で7つの店と契約を結び、すべての店が大繁盛します。すると今度は店のほうからサンダースさんへ連絡が来るようになり、4年後にはアメリカで200店舗、さらに5年後には600店舗となり、アメリカ最大のフランチャイズレストランとなりました。こうして65歳の時にすべてを失った人が、ケンタッキー州で最も有名な人といわれるまでになりました。

彼は晩年のインタビューで「あなたが得たもので一番うれしかったことは何ですか？」と聞かれた時に「孤児院の子供たちが私をサンタクロースのように慕ってくれたことです」と答えています。

先日、この、世界で最も有名なロータリアンと2ショットを撮りました。



彼の胸には私と同じロータリーのバッジがついていました。みなさんもケンタッキー・フライド・チキンに行ったときは見てみてください。

さて話は変わりますが、現在、国際ロータリーの最優先事項はポリオの根絶です。「あと少し」といわれて数十年が経っていますが、私はこの活動を支持しています。なぜなら、医学的に根絶が可能だからです。ポリオの原因となるウイルスは人の中でしか生きられません。ですから、一旦根絶してしまえばこの地球上からなくなります。

ポリオワクチンには2種類あり、口から飲ませる経口のもの、ウイルスの毒性を減らしたものを注射で投与するものとがあります。日本でも2012年まではこの経口ワクチンを使っていましたが、今ではより安全な注射での投与をしています。パキスタンのような貧乏な国ではまだこの経口生ワクチンを使っています。1本が3ドル、40滴の量があります。一人2滴飲ませるので、20人分となります。一人当たり20円くらいになります。パキスタンの出生数は年間630万人であります。日本の9倍です。死亡率も高く、新生児死亡は1000人当たり40人、25人に一人は亡くなる計算です。それでも5歳以下の子どもは推定で4400万人といわれています。しかもちゃんとした戸籍のようなものはありません。そこでは「見つけたら片っ端からワクチンを飲ませる」という方法をとっています。これは高速道路でのバスの中での投与です。バスのすべてを軍が止めて、ワクチンを飲ませることが義務づけられています。3人でチームを組んでバスに入っていきます。写真の後ろには、銃を持った軍人がいます。こうやって私たちを守ってくれているのです。

バスの中の様子です。左側がワクチンを飲ませているところ、右が指に印をつけているところです。こうやって投与が済んだ子供の左の小指にマジックで印をつけていきます。そして印のない子を見つけてはワクチンを飲ませる、こんな原始的なやり方でワクチンは投与されています。ワクチンの投与は、バスや列車の中でするものもありますが、多くは戸別訪問、家に直接出向いて投与をしています。

イスラム教では、家族以外の男性は家に入ることができないので、女性が多く活躍しています。彼女たちのようなワーカーがパキスタンには40万人おられます。パキスタンでは、宗教的な理由でワクチンを拒否する家族もおられます。特に過激な思想の人はワクチンを西側のものとして毛嫌いされる人もいます。悪態をつかれたり、突き飛ばされたり、殴られたり、時には殺されることもあるそうです。そんな危険なところで、1日8時間、週5回働きます。給料は1か月22000円です。それでも皆、誇りを持ってこの仕事をしています。ジェンダーギャップ指数というのがありますが、これは男女格差を数値化したものですが、パキスタンは148位と“ドベ”でした。そういった中で、ポリオワーカーとしての教育を受けることができたこと、そしてこの仕事で自分の国の子供たちの役に立っている事、それが彼女たちの献身的な活動のモチベーションとなっています。



チーム・ポリオ・ジャパンのメンバーです。驚いたことに、パキスタンにチームとして入っている国は、しばらく日本以外にありませんでした。今は、フランスやベルギーからも入っています。大体15名くらいのメンバーで、年10回、我々日本の仲間が前線で頑張っています。

ただ私は、この活動に参加して思ったことがあります。その一つは、やはりワクチンを正確に子供に投与するのが自分は下手だなあ、ということです。プラスチック製の容器がぼろいこともあって、2滴びったり落とすのはコツが要ります。ポリオワーカーの方は約1秒で投与するのに、私のような素人は時に10秒以上かかりたりします。下手をすると、何滴も投与してワクチンを無駄にすることもあります。私が社会に貢献する一番の方法は、ここではなくて、自分の職場なのだと改めて思いました。それから、日本に帰ってきて思ったことがあります。それはポリオを根絶出来たら、とてもいいことがあるということです。先日の報道で、日本の出生数が70万人を切った、というニュースがありました。それでもポリオがあるうちは、ワクチンとして一人20000円かかります。日本ではより安全な不活化ワクチンを投与するからです。70万人いれば140億円、もしポリオが根絶されれば、毎年それだけ浮くことになるのです。そしてこの人たちは、インドでポリオに感染した人々です。歩くことも困難で、物乞い以外の職業に就くことは出来ません。ポリオを根絶して、このような子供のない世界を目指したい、そのために、これからも皆さんのご協力をお願いいたします。

広島安佐RCにおかれましては、ポリオへの寄付は地区内断トツの1位です。また、ポリオプラス・ソサエティとなっております方が6人もおられます。あらためて、感謝を申し上げます。

ところで、シカゴにある国際ロータリーの本部の会長室にはこんなものが置いてあるそうです。「ロータリーに入る10の理由」とあります。奉仕する機会、とか自己の成長、とか友情とかありますが、最後にあるのが「楽しい」であります。

私の今年度の願いは、「地区の皆さんがロータリーを楽しむことです」「ロータリーを楽しむ」ということは、ロータリーを知ることだと思います。皆様のクラブの例会を魅力ある価値のあるものにする、ことだと思います。クラブで楽しいイベントを企画する、ことだと思います。いろいろな奉仕活動、その達成感を楽しむ、ことだと思います。次の世代の若者たちの成長を楽しむ、ことだと思います。自分の人生を豊かにする、ことだと思います。そして、最終的には「世界の平和」という大きな夢を描いていただきたいと思います。

最後のスライドです。

「よいことのために手を取りあおう」

広島安佐ロータリークラブの今後のますますのご発展を祈念して話を終えたいと思います。

ご清聴ありがとうございました。



～公式訪問前の正副会長幹事懇親会での様子～



米山奨学生 アレ マガル,スクナさん
10月分奨学金 授与



入会式 反田 剛志さん



よろしくお願いします！

本日のゲスト

- ・国際ロータリー第2710地区ガバナー
土肥 慎二郎様
- ・国際ロータリー第2710地区ガバナー随員幹事
柳河 元木様
- ・国際ロータリー第2710地区 佐伯 正道様
- ・G6ガバナー補佐幹事 大方 幸一郎様
- ・アレマガルスクナさん（米山奨学生）

幹事報告

1. BOX配布物

- ・ロータリーの友10月号ガバナー月信（メールで9/30に配信）
- ・米山記念奨学事業豆辞典（2025-26年度版）

2. 例会変更

- ・広島城南RC・広島中央RC・広島東南RC「3 RC 合同夜間例会」

と き：10月3日（金）18:30～

※城南RC同日変更、中央RC9/29、東南RC9/29

ところ：シェラトングランドホテル広島3F 美波

- ・広島陵北RC「広島安佐RCとの合同例会」

と き：10月9日（木）12:30～13:30 ※10/8（水）の例会変更

ところ：リーガロイヤルホテル広島

3. お知らせ

- ・次週10/9の例会は通常例会ですが、広島陵北RCとの合同例会となっております。当クラブがホストとなっておりますので、皆様ご出席の程、よろしくお願いいたします。
- ・10/25(土)開催予定にしておりました「秋の家族例会」を参加人数が少ないため延期いたしました。よって、10/23(木)を通常例会といたします。会場は3階芸芸の間です。改めて出欠を事務局までお伝えください。よろしくお願いいたします。

本日は、ガバナー公式訪問でした。2025-26年度 第2710地区 土肥慎二郎ガバナー、柳河元木ガバナー随員幹事、そして、先々週に続いて、2025-2026年度 国際ロータリー 第2710地区 グループ6 佐伯正道ガバナー補佐、大方幸一郎 ガバナー補佐幹事にお越しいただきました。

例会では、本日までに入会された反田会員の入会式があり、土肥ガバナーから入会バッジが贈られました。反田さん、これから楽しいロータリー生活を一緒に送みましょう！（4週間のゲスト期間も例会に出席していただき、ありがとうございました）

そして、土肥ガバナーの卓話では、ロータリーについて、ガバナーの体験を混じえ様々なお話を聞かせていただきました。ガバナーのお人柄が伝わるわかりやすい内容で、特にカーネルサンダースさんの逸話は興味深かったです。カーネルおじさんとの2ショットも素敵でした！余談ですが、ガバナーは、安佐RC伝統の楽器によるゲストの歓迎に少々驚かれたようです。安佐RCの個性が伝わりましたね！？

例会後は、会場を32階に移してクラブフォーラムを行いました。32階からの眺めに、ゲストの皆さんも喜んでくださったので良かったです。

クラブフォーラムは、佐伯ガバナー補佐の絶妙な司会進行で、会員全員が発言する機会をいただきました。各人が安佐ロータリークラブのことをきちんと考える良い機会になりました。始まる前は、やや緊張しましたが、終わってみれば、時折、笑いが混じりリラックスした雰囲気の中、とてもいいフォーラムになりました。

土肥ガバナー、柳河ガバナー随員幹事、佐伯ガバナー補佐、大方ガバナー補佐幹事、本日はありがとうございました。

（広報・会報理事 中村 富子）

ニコニコ箱

～会員記念日（10月）～

♪会員誕生月おめでとうございます

- ・岡本 忠文会員(S27.10.11.)

♪☆結婚記念月おめでとうございます

- ・松岡 與吉会員(S45.10.11.)

今ではすごく助けられております。感謝です。

♪パートナー誕生月おめでとうございます

- ・反田 剛志会員(奈々恵様：13日)

いつもありがとうございます。これからもよろしくお願いいたします。

♪入会月おめでとうございます

- ・横手 裕康会員(H30.10.25.)

♪創業月おめでとうございます

- ・黒田 七郎会員(㈱クリーン技研：H7.10.6.)

私は何もしていないのにあっという間の30年です。

- ・河内 亮会員(㈱阪急交通社広島支店：S47.10.5.)

2025年10月9日（木）第1156回
「広島陵北RCとの合同例会」
リーガロイヤルホテル広島
32階 ダイヤモンドルーム



「米山奨学生卓話」

グエン ドゥオン ハイ君（広島陵北RC）
アレ マガル、スクナさん（広島安佐RC）



～ 会 長 時 間 ～

今日10月9日は、散歩はてくてく歩くことから【て（10）く（9）てく】の語呂合わせにちなんで、東京商工会議所の渋谷散歩会議が10月9日を散歩記念日に制定しております。

渋谷区には明治期に小説や詩人として活躍した国木田独歩氏の住まいがあり、そこで著された小説「武蔵野」に「散歩」という言葉が登場したことから、散歩を通じて主に渋谷地域一帯の魅力をPRすることが提唱されております、また、電車、タクシー、バス、車の交通手段が豊富で割と忙しくなく移動していることが多い昨今、あえて目的地を定めず、好奇心のままにてくてく散歩を楽しむことも推奨されております。

皆さんも同じだと思うのですが、若い頃は散歩なんてしょうとは全く思わなかったのですが、なぜか年を取ると散歩、いいよと思う自分自身があります。

テレビでも有吉 弘行が出演している正直散歩という番組があり、ただただあてもなく知らない町を散歩して美味しい物を食べてしゃべる番組です。

私は少し散歩ブームではないかと思っています。皆さんも是非、健康にもいいですので散歩を日課までにいかないにしても旅行などで知らない町に行かれた時は散歩するのもいいものです。



～日本での学びと未来への架け橋～

皆さん、こんにちは。 私はグエンハイドゥオンと申します。ベトナムから来た留学生です。どうぞよろしくお願いいたします。

今日はこの貴重な機会に、ここに立って皆さんにお会いできて大変嬉しいです。まず、Rotary Yoneyama奨学会に心から感謝申し上げます。今年4月からこの奨学金のおかげで、学業と研究に集中できるようになりました。現在、私は広島ロータリークラブのメンバーとして、意義のある活動に参加しています。これらの活動は、私をコミュニティとつなげ、社会への責任を育ててくれます。

私のスピーチのテーマは「日本での学びと未来への架け橋」です。ベトナムから日本への私の旅、学業、現在の研究、そして将来の夢を共有します。今から本格的なプレゼンテーションを始めます。

皆さんに私をよりよく知っていただくために、少し詳しく自己紹介します。私はベトナムのハノイで生まれました。2015年にハノイ工科大学で電子通信工学を専攻して卒業し、Samsung VietnamでR&Dエンジニアとして4年間働きました。それは貴重な時間で、実際の知識をハイテク生産に適用する方法を学びました。

しかし、2020年に日本に留学することを決めました。現在、広島市立大学の情報科学部人工知能工学科の4年生です。知能システム分野の宮崎大輔准教授の指導の下、自動運転車のための画像認識モデルを研究しています。この研究はAI理論と実用的応用を組み合わせ、私のプログラミングと応用スキルを開発しています。

次に、私が日本に留学した理由を共有します。大学卒業後、ベトナムで約4年間働きました。その間、AI技術の爆発 – 仮想アシスタントから自動化システムまで – が世界を変えるのを目撃しました。私は「この技術の中心で学びたい、安全と革新が最優先される場所で」と思いました。

学生に戻る決定は簡単ではなく、安定した仕事を諦め、新しい挑戦に直面しました。そして、日本は人間を尊重する文化、「kaizen」（継続的改善）の精神、そして技術の安全性を重視する理想的な選択でした。さらに、ベトナムと日本の文化に多くの類似点があります – 安全の尊重、共同体精神、自然への愛。例えば、両国とも家族祭りと自然に結びついた料理の伝統があります。これらの共通点が、私の適応を速くし、丁寧な挨拶からグループ活動まで、孤立感なく参加できました。

次に、私の留学生活について話します。広島に来る前に、岡山で約2年間日本語を学びました – 平和な街で、後楽園という日本三大庭園の一つがあります。この庭園は岡山城の隣にあり、春の桜や秋の紅葉で有名な観光地です。そこで散歩する時間が、リラックスと日本の美学を学ぶ機会になりました。

その後、広島に移り、ここは勉強に集中する理想的な環境です。平和で清潔な街で、平和記念公園が近く – そこで散策しながら平和と技術の役割について考えます。ここでの毎日は、安全で支援的な環境で学ぶことに感謝しています。私は課外活動に参加します、例えば福町公園周辺のゴミ拾いや友達との折り紙共有で、関係を広げコミュニケーションスキルを磨きます。

しかし、留学生活はいつも順調ではありません。日本に来た当初、二つの大きな壁に直面しました：日本語と高度な専門知識。また、日本の生活費が高く、関係構築の難しさから孤独を感じました。結果、広島大学の最初の学期でGPAは2.1しか取れず、期待より低かったです。失望しましたが、先生や友達の温かい励ましと似た学習環境（セミナーグループなど）で徐々に適応しました。

私は時間を効果的に管理し始めました：日本語学習、クラブ交流、プログラミンググループプロジェクト。こうして、2年生から今までGPAを3.0に維持しています。これらの困難は柔軟性と忍耐を教えてくれました – 日本の新しい環境への適応の物語のように。私はクラス学習、自習、友達との実践を組み合わせ、個人プロジェクトのようにAIチャットボットで英語学習をサポートし、ビッグデータからAIスキルを鍛え、人間関係を築きました。

さて、次に、私の研究を紹介しましょう – これは日本での学習旅の重要な部分です。まず、自動運転技術の将来の文脈について話します。最近の報告によると、日本での自動運転市場は2025年に約3.21億ドルに達し、2031年までに8.06億ドルに成長すると予測されています。日本は世界をリードし、東京、福岡、愛知でのパイロットプロジェクトでAIとセンサーを焦点に、高齢者支援 – 老化社会の問題 – に注力しています。

トヨタ、ホンダ、日産などの企業がR&Dに大きく投資しています。例えば、2023年からJR-WestとSoftBankが広島県東広島市で公共道路約5kmの自動運転バスを試験 – JR西条駅と広島大学キャンパスを結びます。これは日本初の連結バス列形

成実験で、安全を確保するための慎重さと小規模を強調しています。

ベトナムでは、自動運転市場はまだ若いですが、潜在力が高く、特にスマート交通システム構築で渋滞と道路安全を解決します。中国のWeRideのようなスタートアップが東南アジアに拡大し、ベトナムは近い将来重要な販売地域になる可能性があります。私の研究は日本からベトナムへの技術移転に貢献し、交通事故減少と経済推進を助けます。

現在、私は大学の画像メディア工学・CGグループで研究しています。主なテーマはハイパースペクトラルカメラからの画像を使って機械学習モデルを訓練し、自動運転システムに適用することです。皆さんが想像しやすいように、通常のカメラは人間の目が見るRGBの3チャンネルに基づきます。

しかし、ハイパースペクトラルカメラは多くのチャンネルを記録 – 人間の目に見えない波長、例えば赤外線などを含みます。コンピュータはこれらのチャンネルを分析し、道路上の物体をより正確に、速く検知し、適切な応答を運転システムに提供します。例えば、悪天候で木の葉と障害物を明確に区別できます。私はハイパースペクトラル画像分析を、自動運転の現在の限界を克服する鍵と見なします、霧や夜間の認識など。

私の研究は、ハイパースペクトラルカメラを通じてコンピュータが物体を効率的かつコスト効果的に認識する方法に焦点を当てます。最初に基本的な機械学習モデルUnetを使い、リアルタイム認識を最適化し、より複雑なアーキテクチャで開発します。

以下は私の研究結果の一部です（ここでスライドの画像を表示します – 訓練回数ごとに精度が向上するグラフを示します）。現在、物体認識精度82%を達成し、卒業論文を完成中です。これらの結果は理論だけでなく、実践から来ており、AIワークショップ参加やコミュニティ共有です。

これからは私の将来の夢です。まず、近い目標はこの研究を完成させ、国際会議で発表し、コミュニティと知識を共有することです。卒業後、自動運転システム開発会社から内定をもらいました – そこで知識を適用し、ベトナムと日本の橋渡しに焦点を当てます。同時に、社会人大学院生として学習を続け、キャリアを中断せずにAIを深く研究します。

これらはすべてRotary Yoneyama奨学会の精神を追求します：教育と技術を通じた世界平和への貢献。私は二国間の「技術の橋」になりたい、日本からベトナムへ知識を運び、自動運転産業を推進し、事故減少と経済発展を支援します。今日のスピーチを通じて、学びとつながりの力で皆さんにインスピレーションを与えられたら幸いです。

ご清聴ありがとうございました。





～ネパールについて～

皆さんこんにちは、ナマステ

広島安佐ロータリークラブの奨学生のネパール出身のアレマガルスクナと申します。広島YMCA専門学校へ通っています。将来にホテルマンになりたいです。本日、お忙しい中お集まりいただき、ありがとうございます。

本日ネパールのご紹介をさせていただきます。

ネパールは南アジアにあり、隣国はインドと中国です。周りは海がありません。世界では、国は仏陀の生誕地と世界で一番高い山エベレストで知られています。世界最高峰のエベレストを含む世界上位の10の高山のうち8つ山を有し、ほとんどが8000メートル以上です。もともとネパールは別々の小さな王国でした。18世紀にピリチビ・ナラヤン・シャー・に国として統一されました。そこから続いたシャー王朝の統治をが2008年に終止符を打たれて、連邦民主共和国になりました。国は自然が美しく、伝統的な場所、歴史があります。世界中で有名で海外で観客が訪れています。それぞれの8つ場所はユネスコ世界遺産に含まれてます。

国ではヒンドゥー教の人口が多く、ダサイとティハールは第二お祭りです。ヒンドゥー教では牛は母親として崇拝しますので食べれません。ヒンドゥー教以外、仏教、イスラム教、キリスト教、シーク教様々な宗教の方がいます。宗教によってお祝いお祭りさまざまありますが、国にある民族でお祝いお祭りも異なります。宗教、民族いろいろ異なっても国でみんな仲良く住んでいます。

国で驚く2つのことをご紹介します。一つ目は、国の国旗は2つの三角を合わせています。2つ目は、世界カレンダーで今2025年ですが国では2082年です。

米山奨学生として選ばれて、本日、母国について話す機会をいただき、ありがとうございました。健康上の理由で本日は私のカウンセラー松岡先生は参加していらっしゃいませんが、健康で退院できることを願っています。本日はお時間いただき、ご清聴ありがとうございました。



スクナさんの家族



ネパールの食事





本日は、今年度最初の広島陵北ロータリークラブさんとの合同例会でした。昨年度より始まった合同例会も今回で4回目です。陵北RCさんとは親子関係なので、皆さんとも顔見知りになって、毎回、お会いするのを楽しみにしています。

今日のホストは我々安佐RCということで、楽器でのゲストの歓迎を、陵北RCの方々にも体験していただきました。皆さん、思い思いに好みの楽器を選んで楽しんでくださったようです。

そして、本日の卓話は、両クラブの米山奨学生の二人に登壇していただきました。陵北RCの奨学生グエン ドゥオン ハイ君はベトナム出身。そして、安佐RCの奨学生アレ マガル、スクナさんはネパール出身。二人は自己紹介を主に、日本での学生生活や国のことなど色々な話をしてくださいました。グエン君、スクナさん、ありがとうございました。これからも、ロータリークラブをはじめ沢山のひととの出会いを大切に頑張ってください。

次回の合同例会は陵北RCさんのホストで11月26日（水）に開催されます。安佐RCの皆さん、水曜日ですでお間違いないよう、よろしくお願いします。

（広報・会報理事 中村 富子）



本日のゲスト

グエン ドゥオン ハイ君（米山奨学生）
アレ マガル、スクナさん（米山奨学生）
川野 恵美様（入会予定者：広島陵北RC）
住田 一英様（入会予定者：広島安佐RC）

ニコニコ箱

♪山岡 稔会員・中村 富子会員

本日は、今年度初の合同例会です。広島陵北RCの皆様どうぞよろしくお願いします。そして、本日の卓話は米山奨学生のグエンドゥオンハイ君、アレマガルスクナさんです。卓話を楽しみにしています。どうぞよろしくお願いします。

♪浮田 収会員

陵北RCの皆様、本日はよろしくお願いします。26年目にエレクトとなり、出席率を上げてきております！本日入会予定者住田酒店に来ていただきました。住田社長、よろしくお願いします。

♪奥芝 隆会員

先週のガバナー公式訪問においては、山岡会長、中村幹事、大変お疲れさまでした。和やかな雰囲気の中で終る事が出来ました。良かったです。

¥4,000 累計¥275,000

幹事報告

1.例会変更

- ・広島廿日市RC「職場訪問例会」
- ・と き：10月20日（月）12:30～ ※同日変更
- ・ところ：（株）ウッドワン「ショールーム」

2.休会

- ・10月14日（火）広島RC・広島安芸RC
- ・10月15日（水）広島東RC・広島陵北RC
- ・10月16日（木）広島北RC・広島西RC
- ・10月17日（金）広島城南RC
- ・10月21日（火）広島西南RC

3.お知らせ

- ・次週10/16は休会となっており、次回例会は10/23です。お間違いないようよろしくお願いいたします。
- ・10/19（日）の地区大会にご出席の方で、青少年とロータリー一時間からご参加の方は9：30から受付です。本会議から参加の方は12：00から受付ですので、よろしくお願いします。いずれも、会場は東広島芸術文化ホールです。
- ・北上和賀RCの9月分会報が届いております。回覧いたしますので、是非ご一読ください。



2025-26年度 国際ロータリー第2710地区 地区大会によせて

10月18日（土）・19日（日）の2日間。2025-26年度 国際ロータリー第2710地区 地区大会が開催されました。

大会2日目は、土肥ガバナーのお膝元・東広島市の「東広島芸術文化ホールくらら」を会場に、午前中は「青少年とロータリーの時間」で、ローターアクト・インターアクトクラブ・交換留学生・グローバル奨学生・米山奨学生の皆さんが活動発表をしました。

私たち、広島安佐ロータリークラブからは、グローバル奨学生の磯部さんと、米山奨学生のアレマガル・スクナさんが登壇しました。

グローバル奨学生の磯部さんは、1年間の留学を終えて帰国したばかりで、留学先のイギリスでの学生生活や研究テーマについて報告しました。

米山奨学生は今回とても人数が多かったので、1人1分ほどの少ない時間での発表となりました。スクナさんは、ネパールの民族衣装を着て、大きな声で元気よく、自己紹介とロータリークラブへの感謝の言葉を述べました。

二人とも、目標に向かって前進する姿は、頼もしく立派です。これからも、安佐ロータリークラブ一同応援しています。頑張ってください。

そして、午後は本会議でした。

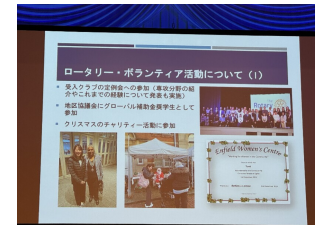
例年、安佐ロータリークラブは登録者数が少なかったのですが、今年は10名近い皆さんが参加し賑わいました。

地区大会は1年で一番大きなイベントで、2710地区の会員が一堂に集まります。他クラブとの交流や、ロータリークラブの現状などを把握する良い機会です。

次年度もたくさんの参加があることを願います。

参加された皆さん、おつかれさまでした！

（広報・会報理事 中村 富子）



感謝状

個人平均寄付額 第2位
広島安佐ロータリークラブ 殿

貴クラブは2024-2025年度における
ロータリー米山記念奨学会の個人平均寄付額が
2710地区において第2位でありました
依てここにその功績を称え表彰いたします

2025年6月30日

公益財団法人ロータリー米山記念奨学会
理事長 若林 紀男



2025年10月23日（木）第1157回
リーガロイヤルホテル広島
3階 音戸の間



「新入会員卓話」

～「ご縁に感謝！こんな私でも、
何とかここまでやってきた！」～
反田 剛志 会員



～ 会 長 時 間 ～

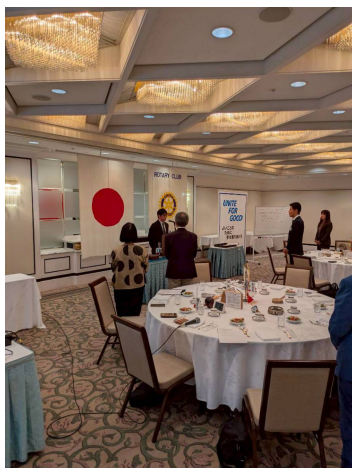
今日10月23日は1869年10月23日に東京都～横浜（神奈川県）間で日本初となる公衆電信線の架線工事が開始されることにちなんで、当時の電電公社が電信電話記念日と制定しております。架線工事が完了して実際に電話事業が開始されたのは1890（明治23年）年12月16日のことで、同日は電話創業の日としても記念日が設けられております。

因みに1890（明治23年）年12月16日に当時の東京市内～横浜市内の2区間で日本初の電話事業が開始され、東京都千代田区に設置された電話交換局が始業したことにちなんで記念日に制定されております。

当時の電話は電話交換局に常駐する交換手に電話相手を取り次いでもらうスタイルで、電話交換局は、電話交換手女性7人、夜間対応手男性2人の24時間営業でした。

また、当時の加入電話は東京155台、横浜44台で電話料金は地域別の定額制となっており東京40円、横浜35円でした。

1890（明治23）年頃は米15kgが1円だった時代で、当時の通話料金を現代に値段に換算した場合40円が約20万円と相当な割高料金となっておりました。



「四つのテスト」

当クラブは毎例会、会員が順番に登壇し、唱和します。

皆様こんにちは。先日のガバナーからのロータリーバッジ授与に続き、本日はこのような機会をいただき、ありがとうございます。約1か月半、計5回と言う長い審査期間を何とか突破し、やっと入会させていただいたと思いきや、新入会員卓話という最後の大きな関門を与えていただきました。先輩からの教えはYESかハイで答えなさいと言う事ですので、迷うことなくYESと答えさせていただきました。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

それでは自己紹介から始めたいと思います。

私は3年前まで、業界団体の全国副会長をしており、各地で講演もしておりました。その時の資料がありましたのでその資料に少し手を加えて進めていきたいと思います。私の会社は「アイ保険サービス株式会社」と言います。主に損害保険・生命保険の代理店をやっています。関連会社として有限会社ACCESS・ONEというレッカーサービスやレンタカー手配をする会社もやっております。所在地は、広島市中区猫屋町です。猫屋町と言えば広島市内の方でもなかなかご存じの方は少ないのですが、むさし土橋店の前、と言った瞬間、広島県内の誰しもがわかる場所に位置しております。従業員は役員・正社員・パート等を含め15名、個人のお客様が約3,300名、法人のお客様が約400社、三井住友海上社内の代理店業務ランクでAAAに格付けされております。この格付けは売上高やお客様の数だけではなく、「経営計画・収支の安定性」「販売力・接客率」「知識・人材育成・活動管理」「業務品質・事務能力」等々30以上の高い基準と数十に及ぶ指標をクリアした代理店が認定されますが、全国に数万店ある代理店の内わずか1%程度です。お客様本位の業務運営を心がけております。

現住所は安佐南区西原でマンション暮らしです。長女は大学3年生で北九州で一人暮らし、次女は大学1年生で山口で一人暮らし、父は実家の北広島町で一人暮らし、西原では妻と高校1年生の末っ子長男と3人暮らしです。

次に生い立ちですが、昭和49年1月25日、産まれたのは県病院ですが広島県山県郡千代田町壬生で育ちました。両親ともに地方公務員で明治生まれの祖父と大正生まれの祖母に囲まれ、厳しく育てられたと思っております。家は兼業農家もやっており、小さい頃から手伝いは当たり前で小学生の頃にはトラクターや軽トラックなどは普通に運転させられておりました。中学からは私立の新庄中学へ進学したものの、全く勉強はしていませんでした。クラブ活動は剣道部で初段だけは取りました。中学3年間は毎日新聞配達をし、中国新聞から感謝状もいただいております。高校もそのまま新庄高校へ進学し学校へは毎日行っていました。授業はほとんど出ていませんでした。クラブ活動はバレー部に所属はしていましたが、対戦相手がヤンキーの時だけ試合に出させてもらったり、相撲部員が足りないで団体戦の借り出し部員として大会に出してもらったり、応援団長をさせてもらったりと言う具合でした。そんな中でも今でもお付き合いのある担任の先生や校長先生は正面から向き合ってくれていました。将来何になりたいのかのアンケートで「社長」とだけ書いた私にそのためにはどうするのかを聞き、まさか大学に行くなんて考えてもいなかった私をその気にさせてくれました。そこからは必死で勉強しました。残された期間はたった数カ月、3年間分の猛勉強です。たくさんの先生たちと握りもしました。もし大学に合格したらお好み焼きをたらふく食わせてやるとか、ひどい先生はそんなことあるわけないから校庭を逆立ちして一周してやるとか言っていました。頑張っているのを見てくれていた担任からは「どうしても大学へ行きたいなら、応援団長もやったんだし指定校へ推薦してやる」と言っていたきましたが「自分の力で合格したい!」と断りました。その後、何と3つも大学に合格し、晴れてみなさんご存じの岡山商科大学に入学しました。私はこれまでの自分を取り戻すべく大学へは勉強をしに行きました。もちろん田舎者の私からすれば岡山市は都会ですから4年間ずっとアルバイトもしましたし社会勉強もシッカリしました。懸命に勉強をしていたので3年間ですべて単位を取り、4年生では週に1回のゼミだけ学校へ行っていました。なので卒業アルバムには個人写真がなく、ゼミ写真1枚しか載っていません。高校の卒業アルバムには全クラスの全ページに載っているんですが。

さあ社会人へ向けて、就職活動を始めます。と言っても世の中バブル崩壊直後、さらに第2次ベビーブーム時代生まれ。高校時代に「社長になる」と言ったことには程遠いと感じていました。そんな中、昼まで寝て夕方からバイトに出る生活をしていて私に、岡山のテレビ局が素晴らしいドラマを放送してくれました。夕方の再放送でやっていた番組で織田裕二さんが主演の「お金が無い」というドラマです。年の離れた妹と弟がいて、3人で貧乏暮らしのお兄ちゃんが保険会社へ就職しドンドン出世して、最後には独立して社長になると言うストーリーです。「これだ」とばかりに飛びついて当時の東京海上、三井海上、住友海上などを訪問し三井海上に特別研修生として入社しました。保険の事は全くわかりませんでしたし、なぜ三井海上を選んだのか本音を聞かれると、三井って聞いたことあるし看板のロゴマークが日の丸ばくってカッコ良かったからと言う理由だけです。

社会人になってからは「子供のころから働いてきた」という自負がありましたが、そんなものは本当の社会では全く通用しませんでした。この仕事で独立開業する人はだいたい社会経験が豊富とか地縁血縁がかなりあるという方です。田舎で生まれて岡山の大学に行き広島で仕事をするなんて無謀でした。でも、30年間ここまでやってこられたのは、お客様本位を貫き営業数字の事は気にせず、人の役に立とう、困った人のためになろう。という気持ちで仕事をしてきた事だと思います。それが、少しずつではありますがお客様が増えていった一番の要因だったんだと信じております。

保険の営業と言うと、何やら要らないものを売りつけられると思われがちですが、私は全く気にしていません。非常に公共性・公益性の高い職業で、世の中に無くてはならない存在だと思っております。たまたま大学生時代に夕方岡山の再放送でやっていたドラマに感化されただけに、ここまでやってこられたのは驚きですが、これは一重に出会った方々に支えられてきたからに違いありません。尊敬する同業の先輩に教えてもらった言葉があります「人の出会いは偶然に見えて必然なんだ。俺とお前は会うべくして会ったんだ」皆様との出会いも偶然ではなく必然だと確信しております。

ここで少し、実際の私たちの活動を少しお話しさせていただきます。

多分高校時代の社長になると言っていた私は、お金持ちになる。と言う事だったんだろうと思いますが、今は違います。企業とは地域社会に貢献してこそ企業だと思っております。これが、高校時代の校長が私に教えてくれた「最大の努力をもって最小の効果を得よ」です。経済学とは真逆の言葉を教えてくれ、大学卒業時には卒業証書を持ってこの校長へ見せに行き、「大学を卒業したけどわからない、あの4年前の言葉の意味を教えてください」と言いました。校長は自分の小銭入れのお金を机の上に全部出して「このお金をお前さんが全部使ったらどうなる」とだけ教えてくれましたが、まだハッキリと理解できませんでした。今になってやっと本当の意味が解ってきた気がします。

先日、大学の先輩が「お前が良く言うYESかハイの答えはロータリーの精神と共通だ」と教えて下さりました。この度、ご縁があつて広島安佐ロータリークラブにお誘いいただき、正式入会の最終許可が出れば大変光栄に思います。なぜなら初めてゲスト参加させていただく前は非常に緊張しておりましたが、当日は皆様全員に「よく来てくれた」と暖かい言葉をかけていただき1日で緊張がほぐれました。なんとアットホームで話しやすい方たちばかりなんだろうと感じました。これから、もっと皆さんと仲良くなりたいですし「ロータリーでしかできない事、ロータリーだからやるべき事」を「YESかハイ」の精神でたくさんやっていきたいと願っております。

それでは皆様、正式入会の許可とこれからのご指導の程、宜しくお願い申し上げます。



本日は、とてもフレッシュなゲストが二人来てくださいました。一人は会員のお孫さんで入会されれば、初の親族会員（というかどうかは？ですが）です。お二人は、20代・30代と若いので、好奇心とエネルギーに溢れていて、見ているこちらでも楽しくなりました。もしも、入会していただけたら、平均年齢がグッと下がるのですが……

そして本日の卓話は、10月に入会されたばかりの反田剛志会員の新入会員卓話でした。反田会員は、声が大きくて、マイクなしでも例会場中に届くほど元気！自己紹介に始まりお仕事のことなど、約30分間たっぷりお話していただきました。ちょっとやんちゃだった学生時代、「社長になる」という漠然とした夢に向かって急展開で頑張り、今では15人のスタッフを抱える立派な「社長」になられました。

反田会員、楽しいお話をありがとうございました。これからも持ち前の「元気印」で、安佐ロータリークラブを盛り上げてください。

最後に、本日の食事は「100万ドルの食事」で、初のパスタ（ペスカトーレ）でした。パスタは大人数には対応できないらしく、安佐ロータリークラブならではの特別メニューだそうです。シェフのこだわりで出来立てを提供してくださり、熱々でとても美味しかったです。会員の皆さんも「美味しい」と大満足の様子でした。

リーガRHの皆さん、ありがとうございました。

人数が少ないクラブだからこそその美味しいお話でした！

（広報・会報理事 中村 富子）



本日のゲスト

松元 遼樹 様

藏永 幸之介 様

ニコニコ箱

♪山岡 稔会員・中村 富子会員

先週末の地区大会に参加された皆さん、お疲れさまでした。そして、本日のゲストに黒田さんのお孫さんの松元様とグロースペリエンス藏永様にお越しいただいています。どうぞおかつろぎください。

♪奥芝 隆会員

反田さん、今日の卓話楽しみにしております。どうか期待通りに終わりますよう、よろしくお願いします。

¥4,000 累計¥304,000

幹事報告

1.BOX配布物

11月プログラム

12/18(木)開催の「クリスマス家族夜間例会」のご案内
休会のご案内(11/20・12/25)

2.例会変更

広島安芸RC「広島東RC・広島安芸RC合同夜間例会」

と き：10月29日（水）18:30～

※28日（火）を変更※東RCは同日変更

ところ：ホテルグランヴィア広島4F 悠久

3.休会

10月27日（火）広島廿日市RC

11月5日（水）広島陵北RC

4.お知らせ

11/26（水）の広島陵北RCとの合同例会の出欠表を回覧しております。
ご回答の程 よろしく申し上げます。

次週10/30は休会です。次回例会は11/6ですので、お間違いないようお願いいたします。

崇徳高校IAC募金	10月分
安佐RC会員	15,000円
累計	67,000円

2025年8月クラブ出席率

会員数：15名

例会数：3回

クラブ出席率：79.52%